

- 1 派遣期日 平成27年11月28日(土)
- 2 研修先 学校名 茨城大学教育学部附属中学校
所在地 茨城県水戸市文京1-3-32
<http://www.jsch.ibaraki.ac.jp/>

3 研修内容

平成27年度茨城大学教育学部附属中学校公開授業研究会

研究主題『21世紀を生きるための「教養」を高める学びの創造(2年次)』

(1) 研究の基本的な考え方

茨大附属中学校では、21世紀に必要な「教養」を自己の生き方の基軸になるものと考えている。また、どんなに多くのことを知っていても、社会のために役立てようと考えなければあまり意味がなく、どんなに立派な考えをもっていても実践が伴わなければあまり意味がないと考えている。そこで、21世紀を生きるためには、「解」を見出すために、豊富な知識や情報を集め、関連付けて考え、確固たる自分の信念に沿って働きかけ、実践に移すことが重要であるとし、「教養」を「生きて働く知識」「見方・考え方、価値観」「表現力・実践力」という3つの要素に整理している。

さらに、授業の中で「教養」を高める手立てとして、「問い、考え、表現する」ことを重視している。探究的・協同的な学びを展開し、物事の本質にせまる「深い理解を伴う知識」や「実際に使える技能」を身に付け、「関連付けながら総合的に考え判断し適切に行動する力」、自分の思いや考えを「適切に表現し確実に伝える力」を向上させることを目指している。

以上のような考えをもとに、授業を通して『課題解決に向けて、「問い」を発しながら、素朴で素直な思いや考えを表現し合い、共同で新たな価値を生み出している』生徒の姿を目指している。

(2) 研究の手立て

① 道徳ファイルの活用

道徳の時間における自分の学びの成果を残し、「自分が感じた事や考えたこと」、「心に響いた友達の意見」などを、いつでも振り返れるように、道徳の時間で使用した資料やワークシートを保管するファイルを活用している。左ページに授業で使用した資料を、右ページにワークシートを綴じ込むことにしている。ファイルを活用することによって、毎時間の学びの成果(自分の心にどのように響き、どのような変容があったのか)を大切に保管する事ができる。そうして、一人一人が自分自身をよく見つめ、自分や他者のよさに気づき、自尊感情を育むことができると考える。

② ガイダンスの実施

第1回目の道徳の時間に、ガイダンスシートを活用しながら道徳の時間について、ガイダンスを実施した。

【ガイダンスシートの主な記述内容】

- ①道徳を学ぶ意義 ②道徳との向き合い方
③育みたい自分の心 ④半年間の学習の振り返り

ガイダンスを通して、なぜ道徳を学ぶのか、そのねらいや意義を見つめ、ねらいを達成させるために自分はどのように取り組んでいくのか、道徳の時間を通してどのような自分の心を育てていきたいのかを書くことで、生徒自身のスタートラインが定まった。この1年間で目指す自分の姿を記述させていった。ガイダンスシートは、道徳ファイルの最初のページに綴じ込み、いつでも振り返ったり追加記述したりできるようにしている。

③ 道徳の木の実施

毎週木曜日の1校時に全クラスで道徳の時間を時間割に位置付けている。各学年の道徳教育研究部員が中心となって、年間指導計画をもとに、それぞれの道徳の時間の

展開を考えている。毎回の道徳の時間がどのような価値について取り扱ったのか、各学年の掲示板に「道徳の木」を掲示している。付箋紙に、扱った資料名や、価値項目を記入し、貼っていくものである。「道徳の木」を作成していくことで、生徒にとっては道徳の時間に考えた価値を、日常生活の中でも意識するきっかけになると考える。また、教師にとっては、実施した内容の把握ができるとともに、道徳の時間を確実に実施することにもつながる。

(3) 公開授業

第2学年 道徳 指導者 久保 鉄平

主題名 家族の一員として 4－(6) 家族愛

本時について

(1) ねらい

○ 家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していこうとする心情を育む。

(2) 準備

『私たちの道徳』、ワークシート

(3) 展開

学習内容・活動	予想される生徒の問い・反応	指導上の留意点・評価
1 「誰かのために」を読んで話し合う。 (1) 資料を読んで「誰かのために生きる」ことについてどう思ったか。(個人) →4人組をつくり、それぞれが考えたことについて話す。 (2) 各グループで話題になったことを発表し、その中から今日の道徳の中で考えたい問いをつくる。 (3) (2)の問いについて話し合う。 ① 個人の考えをもつ。 ② 全体で話し合う。 ③ 話し合いの後の考えを書く。	・人のために生きれば、素晴らしいことが起こるのだろうか。 ・自分のために生きたい。 ・人のために生きたいという純粋な気持ちがこのようなことをおこしたのではないか。 ・お母さんは自分も苦しいのに、子供のために、お弁当を作ったことが凄い。 ・母親の責任として「子供の卒業式まで生きたい」と思った。 ・いろんな人に支えられて生きているのだなあ。 ・鎌田医師のところには何を伝えに来たのだろうか。 ・人のために生きるという姿がある。 ・人のために生きることは自分のために生きることになる。 ・様々な人が様々な人のために生きている。 ・誰かを助けるような生き方をしたい。 ・両親の手伝いをしていきたい。 ・迷惑をかけないように精一杯勉強していきたい。 ・支えられてきたけど、支える側になれるようにしたい。	○ 資料を読み、感じたこと、疑問に思ったことを大切にできるようにする。 ○ 互いの意見を知ることによって他の価値観や視点に気付くことができるようにする。 ○ 集団の中でも自らの意見を伝えられるようにする。 ○ 人の話を聴くことで、自分の考えを深めたり、広げたり出来るようにする。 ○ 自分の命を子どものために使おうとする母の気持ちを考えさせることで、家族の関係を考えさせたい。 ○ 自分のためでなく、子どものために生きようとする母の思いに迫ることで、道徳的心情につなげていけるようにする。 ○ なぜそう思ったのかを問いなおすことで考えを深めさせる。 ○ 母の思いがどのように伝わっていたかを考えることで、人のために生きた結果の心情に気付かせる。 ○ より多くの生徒に発表させることで、ねらいとする価値への理解を深めていく。 ㊦ 家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していこうとする心情を育むことができたか。

4 感想

机を移動して椅子のみで全体で1つの大きな円をつくったり、4人組で小さな円をつくったりするなど、自分の考えを人に伝えたり、人の話に耳を傾けたりするための場の設定が見られた。小集団での意見の交流から、全体での共有などが、生徒自身の考えの変化や深まりなどにつながり、道徳的な心情のさらなる深化が見られた。道徳の授業だけで無く、普段の学校生活の中の様々な場面で話し合い活動を取り入れることによって、自分の意見を伝え、人の意見を受け入れる態度が身に付く事を感じた。